

## 虐待は誰のせい？

中一

昨年の読書感想文の課題で『ぼくが選ぶ　ぼくのいる場所』という小説を読んだ。家庭内暴力や児童虐待を受けた主人公の少年が、自分の居場所を見つけていく物語だ。私をとりまく環境とあまりにも違っていて、なかなか理解が追い付かなかつた。それ以降、テレビやインターネットのニュースで、子供が虐待や育児放棄される事件が流れると、気になつて仕方がない。殴られて亡くなつてしまふ子、暑い車で放置される子、どうしてそんなことが起ころう。大好きな親から虐待をされて、その子はどんな気持ちでいたのだろう。その子だって、これからたくさん遊んで笑つて、幸せになる権利があつたはずなのに、それを奪われて、どんな気持ちだつたのだろう。いや、むしろ権利という考えすら分からぬ小さな子は、ただただ大好きなお母さん、お父さんと一緒にいたいと思ったのではないか。私は子供の立場で想像して、涙が出てきてしまう。

少しお姉さんの立場でも考えてみる。私は小さい子が大好きで、たまらなく可愛いと思う。まして自分の子だつたらどんなに可愛いだろう。五歳のいとこの、ふつくらしたほっぺや、小さな手で私の指を握つてくれる感覺や、あまりにも歩幅が小さくて歩調を合わせないといけないところも、愛おしい。時々何を言つているのか意味がわからなくて笑つてしまふけど、それも愛おしいと思う。子供はこんなに可愛いし、親は子供を育てる義務があるのに、どうして痛ましい事件が絶えないのだろう。親の立場を想像して考えると、よく分からなくなつてしまふ。

母に、

「私が生まれてこなければ良かつたつて思つたことあるかな。」

と聞いてみた。

「ないよ。」

と即答されて心底ほつとした。でも、大変すぎてつらいと思つたことは何度もあるそうだ。母が言うには、私は可愛いだけではなかつたらしい。赤ちゃんの頃は夜中に何度も起きて泣くし、駄々をこねてどうしようもないし、言うことは聞かない

し、世話だけで疲れ切つていらいらして、狂いそうになつたこともあるそうだ。スーパーで知らないおばあちゃんに、

「大変だね。頑張つていいね。」

と言われて涙が出るくらい救われたこともあったそうだ。

虐待される子が悪いのか。虐待してしまった親が悪いのか。私はどちらでもないと思う。ただ、ニュースで虐待して逮捕されたお母さんが「孤独だつた」と言つていたのが、私の心にシミのようく残つた。きっとそのお母さんも子供が大好きだつたし、子供を育てる責任感や子供の権利も最初は分かっていたと思う。もしそのお母さんに誰かが優しい言葉をかけていたら、子供もお母さんも救われたかもしれない。子供の愛される権利もお母さんの愛情も守られていたかもしれない。

社会は、一人だけで生きることができる場所ではないから、子供の権利はみんなで守ればいい。お母さんだけで抱え込む必要はない。「お互い様」という言葉もあるように、お互いに守り合える優しさで、社会はもつと良くなると思う。

考えてみると私は、小さい頃からたくさんの人

にお世話になつてきた。両親や祖父母、学校や保育園の先生、近所のおばあちゃん、交通安全ボランティアのおじいちゃん。保育園でお迎えが遅い日は保育園の先生が一緒に遊んでくれた。小学校低学年の頃は、学校帰りに迷子になつて、交通安全ボランティアのおじいちゃんに連れて帰つても迷子になつたこともある。家の鍵を忘れて泣いていたら、近所のおばちゃんが「ママが帰つてくるまでおいで」と言つてお菓子をくれたこともある。朝、母に怒られて泣いて登校したら、学校の先生が泣き止むまで隣にいてくれた。A中学校に合格したときは、両親も祖父母も友達のお母さんまでも一緒に喜んでくれた。両親だけでなく血のつながつていないたくさんの大人の愛情が私を育てて、守つてくれている。

だから、私には、子供の権利もあるけれど、それから大人になつて、社会に恩返しする義務があると思う。たくさん的人に守つてもらつた権利だから、これからしっかりと勉強して大きくなつたら、今度は私が次の世代の権利を守れる大人になりたい。社会の一員として子供の権利を守れるように、優しい声をかけられる大人になりたい。